

令和二年度 俳人協会長崎県支部俳句大会

入賞句 (敬称略)

二〇二〇年(令和二年)六月

大会賞

7点 72 髪切つて夏の子どもの出来あがり 梶山カズ子

秀逸賞

6点 97 しあはせは生きてゐること緑立つ 西山 常好

6点 111 死ぬといふ最後の未来夕桜 山口黒邑子

5点 25 振花の知恵を絞つてゐるところ 藺田 桃

5点 114 浜沈丁波音だけの平家塚 米光 徳子

佳作賞

4点 15 皆勤の百歳体操山笑ふ ※ 梶山カズ子

3点 1 鞆の足先天に触れにけり 縣 恒則

3点 12 交響曲第三楽章飛花落花 奥村 京子

3点 16 立たされし遠き記憶や葱坊主 鴨川 富子

3点 29 絵の虎の出で来るやうな竹の秋 田中 正人

3点 56 言ひ訳けの多弁に過ぎて万愚節 湯川 京子

3点 94 暗がりの中にも色や額の花 中村 英子

●六月十四日に予定していた定期総会並びに俳句大会は、コロナウイルス対策の余波を受け、中止しました。応募いただいた114句は、七名の選者の選を受け、その集計の結果、各賞を決定しました。

●採点は、特選一位3点、他の特選2点、本選1点で計算しました。

●当初計画していた秀逸賞3本を、4本としました。

●※印の作品には、重複のため賞品はありません。

西山常好選

特選一位

25 振花の知恵を絞つてゐるところ

藺田 桃

【講評】振花は、文字摺草・綬草とも呼ばれ、野原・道端・庭園等にも見られる。花序がゆるい螺旋状に巻き上り、花をつける。作者はこの特異な花に接し、螺旋状から花が知恵を絞つているところと感じた。人がものを考えている姿に類似していると考へた。一つの花を凝視し、人間と結びつけ詩に昇華させた手腕に深く感動した。

特選

79 腹の子の動くはことば春の朝

小西 秋芳

111 死ぬといふ最後の未来夕桜

山口黒邑子

本選

8 自転車に祖母の御守り入学す

牛飼 瑞榮

15 皆勤の百歳体操山笑ふ

梶山カズ子

29 絵の虎の出で来るやうな竹の秋

田中 正人

31 鬼ごっこ沖へ少年泳ぎ出す

田原より子

46 買ひ足して子供相撲の塩用意

深堀 悦子

48 担任は英語女教師囀れり

松本 裕子

88 田水張る軍艦島の元教師

田原より子

高永久子選

特選一位

97 しあはせは生きてゐること緑立つ

西山 常好

【講評】この度の疫病は唐突であった。地球上の人間が恐れ戦き、日々誰れもが生命の危機に晒されていく思いがした。日常の平凡な営みがなくなってしまった時に初めて思い知った。生命の尊さと生きて居る素晴らしさを。必ずしも今回に限らず生きていくだけで幸せなのだ。掲句は言うて居る。季語の「緑立つ」で生命が新鮮。

特選

80 老幹のおのが落花を洞うまに溜め

小林美智子

114 浜沈丁波音だけの平家塚

米光 徳子

本選

25 振花の知恵を絞つてゐるところ

藺田 桃

28 ムスリムに咲く朝顔に迎えられ

立石佐次郎

29 絵の虎の出で来るやうな竹の秋

田中 正人

41 藁縄を大樹に岩に夏祓

籟先四十三

42 永すぎる女の余生紫木蓮

馬場 定水

51 茅葺きの簷の切り口新樹光

村田まさ子

77 忘れたる頃に流燈一つ来る

栗山よし子

辻原晩夏選

特選一位

114 浜沈丁波音だけの平家塚

米光 徳子

【講評】 浜沈丁は九州以南の海浜に自生する植物でその種が南方より黒潮に乗って渡来したと言われる。沈丁花に似た花を付けるが匂いがしない花であるそうだ。その花と「平家塚」の取合わせの句。どちらも遠方より落ち延びひっそりと生き継いで来たのだろう。匂いも持たず、音も立てず、ただひっそりと。

特選

72 髪切つて夏の子どもの出来あがり

梶山カズ子

111 死ぬといふ最後の未来夕桜

山口黒邑子

本選

8 自転車に祖母のお守り入学す

牛飼 瑞栄

16 立たされし遠き記憶や葱坊主

鴨川 富子

30 海を向く寺と教会花海桐

田原 静子

36 公園に縄跳びの声春近し

中村 成充

65 校長の渾名は女帝入学す

牛飼 瑞栄

86 初耳の父母の馴初め春火鉢

田中 正人

97 しあはせは生きてゐること緑立つ

西山 常好

藤野律子選

特選一位

72 髪切つて夏の子どもの出来あがり

梶山カズ子

【講評】 一見清々しい一句で夏の季語がよく付いている。子どもの汚れない澄んだ瞳や健康的な姿が浮かぶ。今年はコロナウィルス騒ぎで、春休みも、夏休みもどうなるかと思われるが、子供等の元気な夏であればと願う。

特選

94 暗がりの中にも色や額の花

中村 英子

111 死ぬといふ最後の未来夕桜

山口黒邑子

本選

12 交響曲第三楽章飛花落花

奥村 京子

16 立たされし遠き記憶や葱坊主

鴨川 富子

23 辞世歌を彫りし志士像落花なか

小林美智子

25 振花の知恵を絞つてみるところ

藪田 桃

53 親鳥が子を連れてきし若葉風

八百山和子

69 夜桜や金平糖の量り売り

奥村 京子

77 忘れたる頃に流燈一つ来る

栗山よし子

永野濶子選

特選一位

15 皆勤の百歳体操山笑ふ

梶山カズ子

【講評】近年、彼方此方で体力増進・健康維持のため、百歳体操が行なわれている。作者はご長寿を願ひ、つづけられているのだろう。しかも皆勤とはすばらしい！拍手を贈ります。生気が兆しはじめた山も笑って声援を送っています。

これからも皆勤で頑張られますように。

特選

6 大声のパン焼けました街若葉

井上 秀喜

72 髪切つて夏の子どもの出来あがり

梶山カズ子

本選

3 ウイルス禍どこ吹く風か花満ちて

伊崎ゆきを

22 海に映ゆ玄海つゝじ真珠棚

小西 秋芳

41 藁縄を大樹に岩に夏祓

籟先四十三

52 わらんべの虫の居所浮いて来い

森 径子

73 好々爺昔ラガーでありしとか

鴨川 富子

97 しあはせは生きてゐること緑立つ

西山 常好

108 コロナの邪気払へと天へ鯉幟

村田まさ子

牛飼瑞栄選

特選一位

56 言ひ訳けの多弁に過ぎて万愚節

湯川 京子

【講評】国会での総理の答弁を観ていると、よく納得出来る句である。

嘘に嘘を重ねるとか、語るに落ちるなど昔から急場を凌ごうとするあまりの言動。パターンであり、総理に限らず、仕事に失敗した時、不倫や浮気の言い訳、友人との約束を忘れた時など様々な場面を想起させてくれる。

特選

12 交響曲第三楽章飛花落花

奥村 京子

109 夏立つや海を一つに世界地図

森 径子

本選

16 立たされし遠き記憶や葱坊主

鴨川 富子

29 絵の虎の出で来るやうな竹の秋

田中 正人

37 五線譜の上限なしや揚雲雀

中村 英子

48 担任は英語女教師囀れり

松本 裕子

68 貝寄風や舩だまりの銹埃

沖島 孝光

83 美ら海や島より高くヨットの帆

高永 久子

98 どくだみや蘭医形見の処方箋

籟先四十三

鴛渚和明選

特選一位

1 鞆の足先天に触れにけり

縣 恒則

【講評】ブランコの魅力は何だろう。

ブランコが頂点に達した後、一瞬無重力状態が生じ落下していく。その時、跳ね上がった足の先に天がある。不思議な浮揚感や落下感、陶酔をひきおこす。「天」という異世界を希求する心を満たし、酔わせてくれるのがブランコ（鞆）だ。

特選

19 まろき背にまろき陽を負ひ天道虫

草野悠紀子

81 両の手をひろぐこでまりマリア様

坂本 幸代

本選

9 もこもこと新緑迫る山迫る

永福 倫子

22 海に映ゆ玄海つゝじ真珠棚

小西 秋芳

31 鬼ごっこ沖へ少年泳ぎ出す

田原より子

69 夜桜や金平糖の量り売り

奥村 京子

87 曲がりゆく友の柩車や養花天

田原 静子

94 暗がりの中にも色や額の花

中村 英子

97 しあはせは生きてゐること緑立つ

西山 常好